

2022年度 飛騨古川 U-13 交流大会
飛騨古川フレッシュ審判員スクール研修会 報告書

茨城県サッカー協会
3級インストラクター 磯上 雄太
4級審判員 松崎 康浩

1. 日程

2022年5月3日(火)~2022年5月5日(木) 2泊3日

2. 大会名

飛騨古川 U-13 サッカー大会(愛知 FC 主催)

3. 場所

<実技>岐阜県飛騨古川ふれあい広場 他2会場

<講義>岐阜県飛騨古川文化交流センター

4. 参加者

審判員 10名(茨城県 松崎 康浩)

インストラクター 11名(茨城県 磯上 雄太)

5. 研修会目的

若手審判員の発掘・育成

6. テーマ

研修会テーマ「試合を楽しもう、試合後に共有しよう、仲間をつくろう」

試合テーマ「近くで見よう、よい角度で見よう、副審と協力して見よう」

7. 実践研修

各会場にて1日2試合程度



8. 講義

5月3日(火)

① 挨拶および諸注意事項(杉浦氏)

② 「本研修会の意義」(小椋氏)

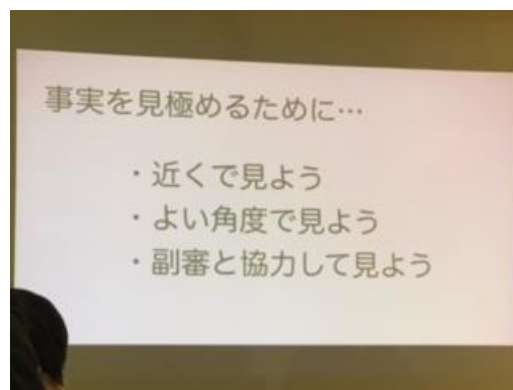
5月4日(水)

① 映像分析(加藤氏)

② ディスカッション

5月5日(木)

閉校式 研修会振り返り



9. 総括

【3級インストラクター 磯上 雄太】

2019年以來3年ぶりに開催された愛知県サッカー協会の交流プログラム「飛騨古川フレッシュレフェリースクール研修会」に参加させて頂きました。本研修会は2003年から長きに渡り若手審判員の発掘および育成の場として位置づけられ、卒業生はJリーグ担当審判員や2級審判員として活躍しているとのことで、受講生も指導者も楽しい雰囲気の中にも、毎試合少しでも向上しようという強い意欲が感じられる熱気あふれるものでした。

受講生は主審経験のほとんどない4級審判から上級を目指す3級審判まで、能力も経験も校種(職種)も異なる13歳から19歳の10名が、1試合1試合真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。また、指導者は受講生同士のディスカッションや学び合いを促すため、あえて答えを与えずに考えさせようと指導しているのも大変勉強になりました。どんな言葉をかけ、どんなヒントを与え、どんな関わり方をすれば、若いレフェリーの気付きや学びを深めることにつながるのか、インストラクターとしてもっともっと勉強しなければいけない。そんな気持ちが強くなりました。

本研修会への参加をお認めくださいました愛知県サッカー協会、茨城県サッカー協会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【4級審判員 松崎 康浩】

私は、初めての他県への研修会で普段得られることができないたくさんの知識を得ることができました。

今回の研修会では、インストラクターが審判員一人一人に付き、反省点や良かった点などを一つ一つ丁寧に教えてくれ、自分にとってプラスになることを指導してくれました。夜に行われた講義では、仲間と協力して物事を考えたり、発言をしてサッカーに関する疑問点など、テーマにもあるように楽しく講義を受けることができました。試合では、講義で「近くで、よい角度で、副審と協力してプレーを見る」という目標を立て、審判員が自分なりに挑戦している姿もありました。

このような他県との研修会は、サッカーだけでなく社会に必要な人とのコミュニケーションをとれる、大事な時間だと思いました。また、すばらしい研修会に参加できたのは、愛知県サッカー協会、茨城県サッカー協会のおかげです。スタッフや、関係者の方々に感謝申し上げます。